

腫瘍マーカーって何??

～血液検査で分かるがんの可能性とは～

体のどこかにがんができると、血液中や排泄物中に、それぞれのがんに特徴的な物質(タンパク質や酵素、ホルモン等)が産生されます。それらを腫瘍マーカーと言い、がんの発見や診断に利用します。

腫瘍マーカーは血液検査で調べることができます。数値が高い場合は体内にがんが存在する可能性があります、それだけでは必ずがんがあるとも限りません。CT 検査や超音波検査など、さらに詳しい検査を行い、確定診断を行う必要があります。

腫瘍マーカー	対象部位	詳細	基準値
PSA	前立腺 (男性)	糖タンパク(PSA)は前立腺でのみ作られるため、前立腺がんの発症確認に大きく役立ちます。ただし、前立腺肥大症でも高値を示す場合があります。	0.0~4.0ng/ml
CEA	消化器系	胃がん、大腸がん、膵臓がん、胆道がんなどの消化器系のがんのほか、肺がん、乳がんなどでも高値となります。CEAは、測定結果は個人差が大きく、喫煙者や高齢者、胃潰瘍でも高い数値を示すことがあります。	0.0~5.0ng/ml
AFP	肝臓	肝細胞がんなどで高値となりますが、胃がん、肝硬変、肝炎でも高い数値を示すことがあるため、この検査単独で診断を下すことはできません	0.0~10.0ng/ml
CA19-9	膵臓	膵臓がん、胆道がん、胃がん、大腸がん、卵巣がん、前立腺がんなどで、高値となります。がんを発症していない人(正常者)でも、微量に検出されることがあります。	0~37U/ml
CA125	婦人科系 (女性)	特に卵巣がんの発症を推定することができます。卵巣がんでは約 80%、膵臓がんでは 50%の陽性率を示すと言われています。ただし、子宮内膜症や生理周期、妊娠により上昇することもあるため、この検査単独で診断を下すことはできません。	0~35U/ml
CYFRA	肺	肺がん(特に扁平上皮がん)などで高値となります。腺がん、大細胞がんなどの非小細胞がんが陽性率が高く、卵巣がん、乳がんでも陽性を示します。	0.0~3.5ng/ml

《注意点》

腫瘍マーカーの値が異常だからといって、必ずがんが存在するわけではありません。

また腫瘍マーカーの値が正常だからといって、必ずがんが存在しないわけでもありません。

正確な結果を得るためには、CT 検査などの画像検査とあわせて、相互補完的に検査を受けることが推奨されます。

ご不明な点がございましたら、ご遠慮なくスタッフにお尋ねください。